

### 第3章 公共施設利用者特性と施設評価

本章では、公共施設の利用者を対象としたアンケート調査の回答を基に、利用者の属性や施設の特徴をまとめた。また、これらから施設と利用者の関係を分析した。

#### 3.1 各施設利用者の特徴

施設別、年齢別、利用目的別に利用者の属性を見ていく。回答者の総数は1,069人となった。

図3.1に施設別年齢比率を示す。

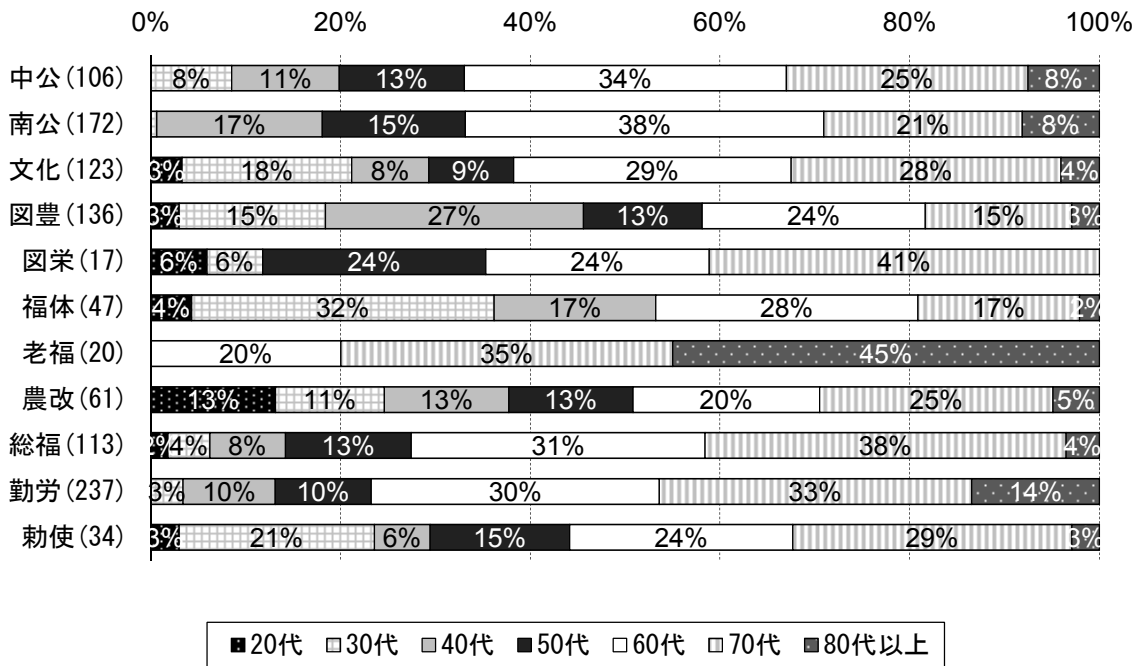


図 3.1 施設別利用者年齢比率

グラフより全体として60代以上利用者が40%を超えている施設が大半を占めている。40代までの中年層が30%を超えている施設は図書館、福祉体育館、農村環境改善センター、勅使会館の4施設となった。60代以上の利用者が多い施設は会議室や多目的室の多い施設となっており、40代までの利用者が多い施設ではテニスコートや室内運動施設などのスポーツ関連施設が多く見られた。

図3.2に施設別の利用者男女比率を示す。

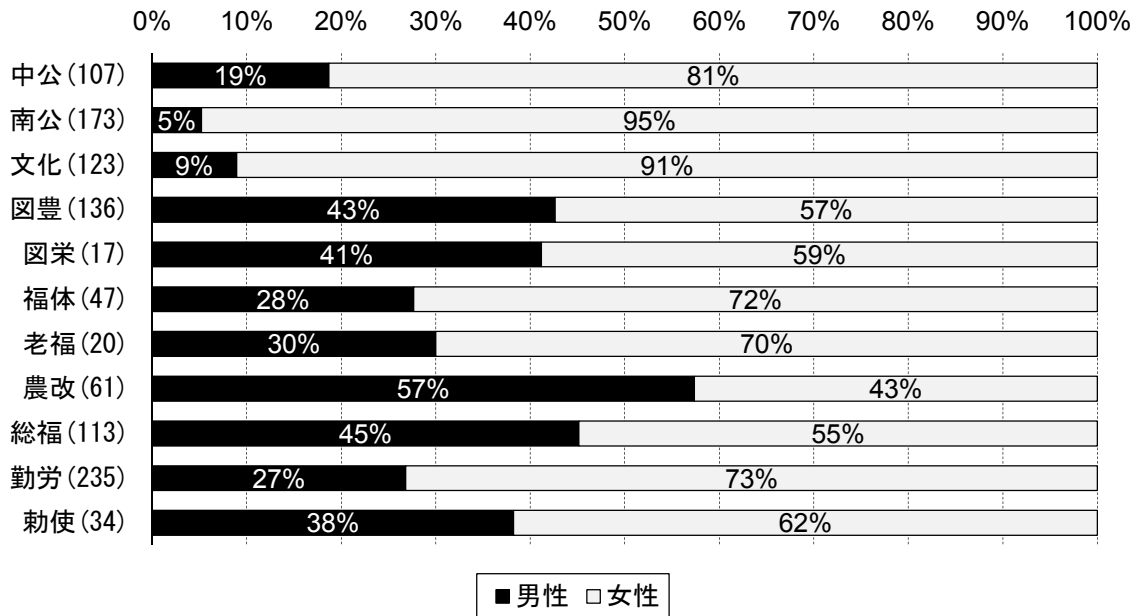


図 3.2 施設別利用者男女比率

グラフより、全体として女性の割合が多いことがわかる。合計では女性が 780 (73.2%)、男性が 286 (26.8%) となった。男性の割合が 40%以上と多いのは図書館、図書館栄分室、農村環境センター、総合福祉会館の 4 施設となった。女性の割合が 80%を超えている施設を見ていくと、中央公民館、南部公民館、文化会館の 3 施設となった。これらの施設は室内サークルが多い施設となった。

図 3.3 に施設別の利用者の住まい比率を示す。

施設の所在地にある地区からの利用者が多くなった施設は中央公民館、文化会館、図書館分室、福祉体育館、総合福祉会館、勤労会館の 6 施設となった。これらの施設は利用者の自宅の近接性を理由に利用していると考えられると同時に、地元に着している施設と考えられる。図書館栄分室では所在地である栄地区からの利用者が 70%を超えている。

また、所在地と他の地区からの利用者が多い施設は南部公民館、図書館、老人福祉センター、農村環境改善センター、勅使会館の 5 施設となった。南部公民館を見ると、様々な地区から来ていることがわかる。これは南部公民館が前後駅の目の前に所在しており、誰でも利用しやすい場所にあるからだと思う。老人福祉センターの利用者をみると、70 代以上の利用者が 80%を超えている施設であるが、多くの地区から利用されている。

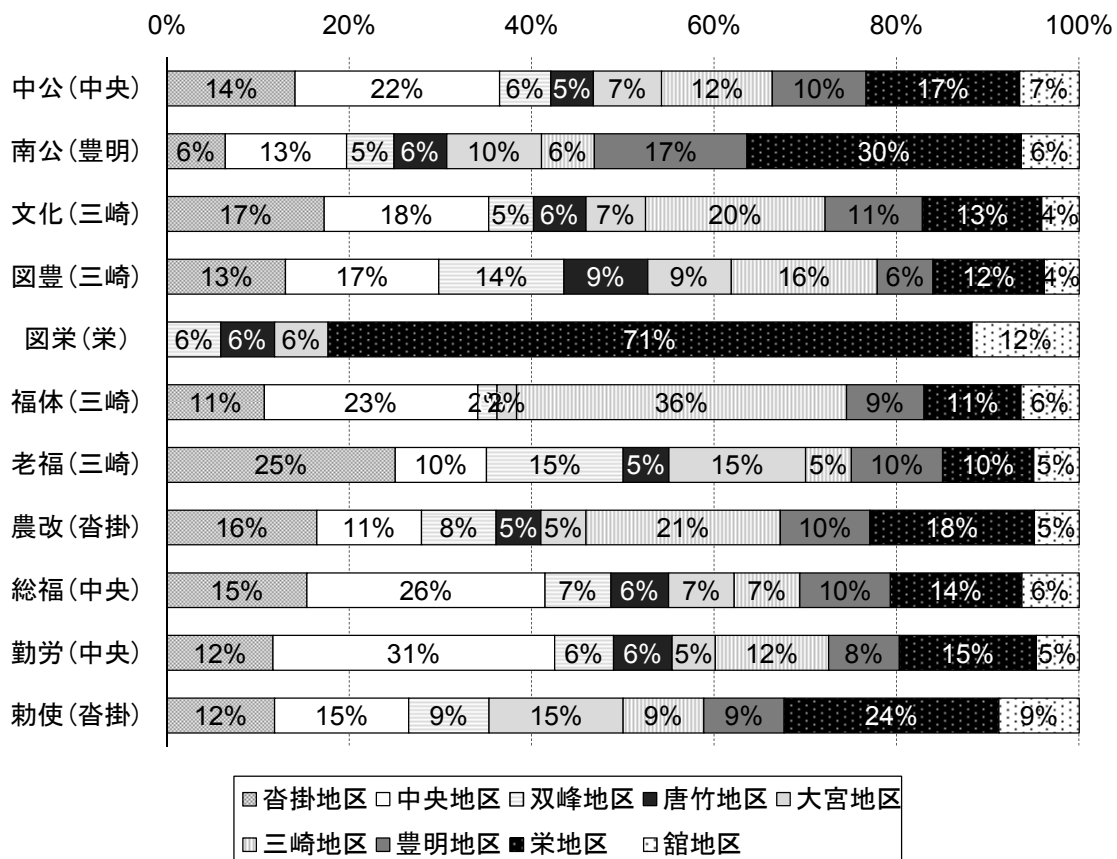


図 3.3 施設別利用者住居地区比率

図 3.4 に施設別の利用者利用頻度を示す。

全体を見るとどの施設も利用者の 80%近くが月に 1 度は利用する施設であり、ひとりひとりの利用頻度が極めて高い。

中央公民館では月に一度の利用者が多く、他の会議室や多目的ホールを貸し出す施設に比べても多い。これは定期的に行われる講演や集会が多いからと思われ、その比率が多くなっている。福祉体育館を見ると週に 1 度以上の利用者の割合が 89%と施設の中で最も多く、利用者のほとんどが習慣的に福祉体育館を利用していることがわかる。老人福祉センターや農村環境改善センターでも同様のことが言え、リピーターの多い施設となっている。総合福祉センターを見ると、半年に 1 回以下の利用者が施設の中で最も多くなっていることがわかる。

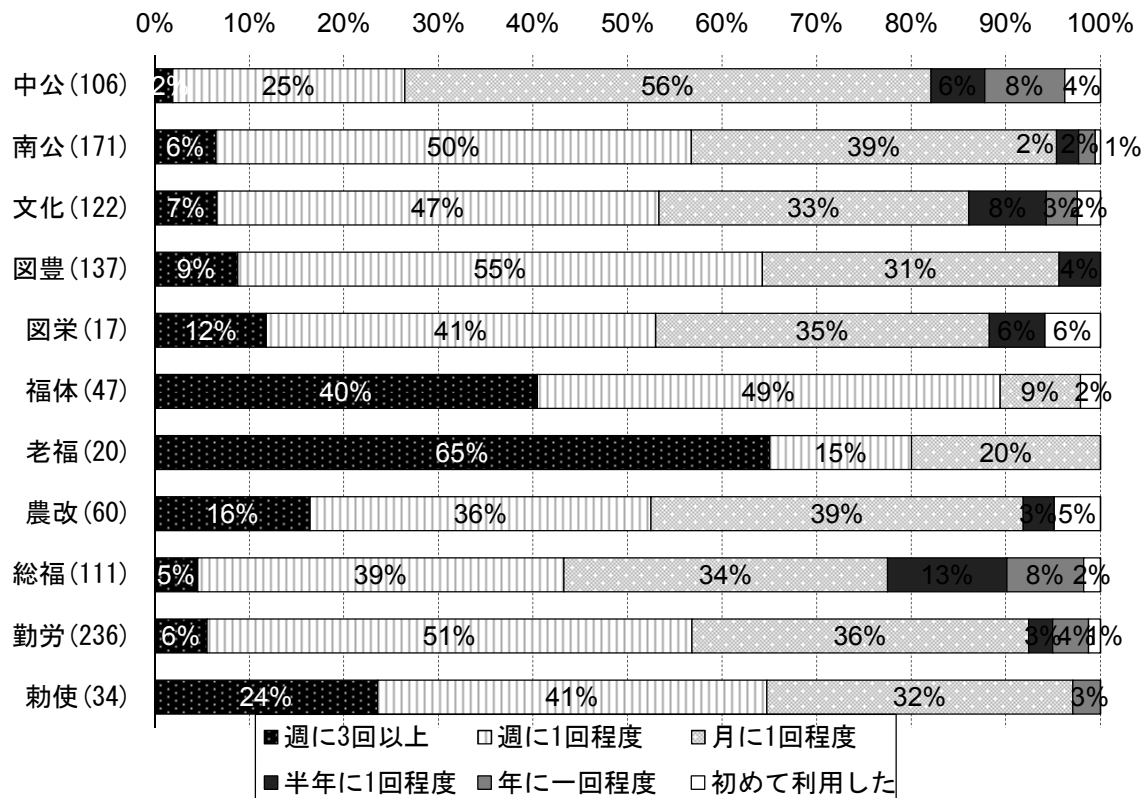


図 3.4 施設別利用者利用頻度比率

図 3.5 に施設別の利用者の利用曜日を示す。

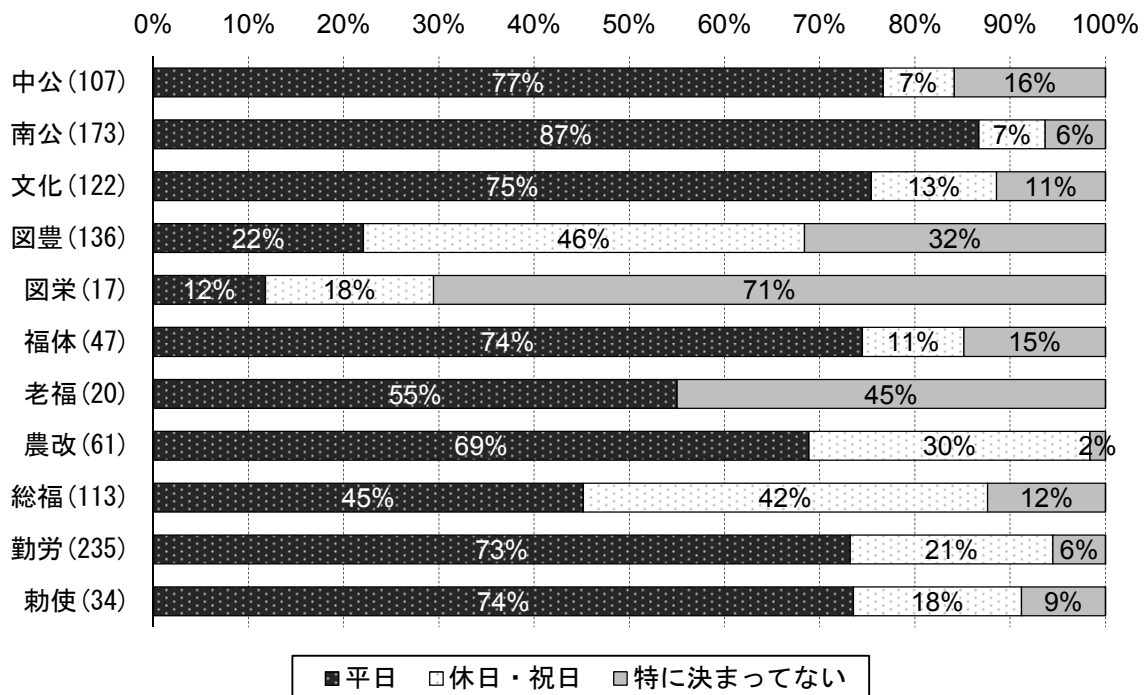


図 3.5 施設別利用者利用曜日

全体として平日に利用する施設がほとんどであることがわかる。休日・祝日の利用が多くなったのは豊明図書館と総合福祉会館であり、ともに40%を超えている。図書館に関しては利用者年齢も低いことからわかる通り、普段仕事をしている中年層が休日に利用しているからだと思われる。それに加えて、図書館栄分室では「特に決まってない」が71%を占めていることもあり、ふらっと立ち寄る利用者が多いことがわかる。

図 3.6 に施設別利用時間帯比率を示す。

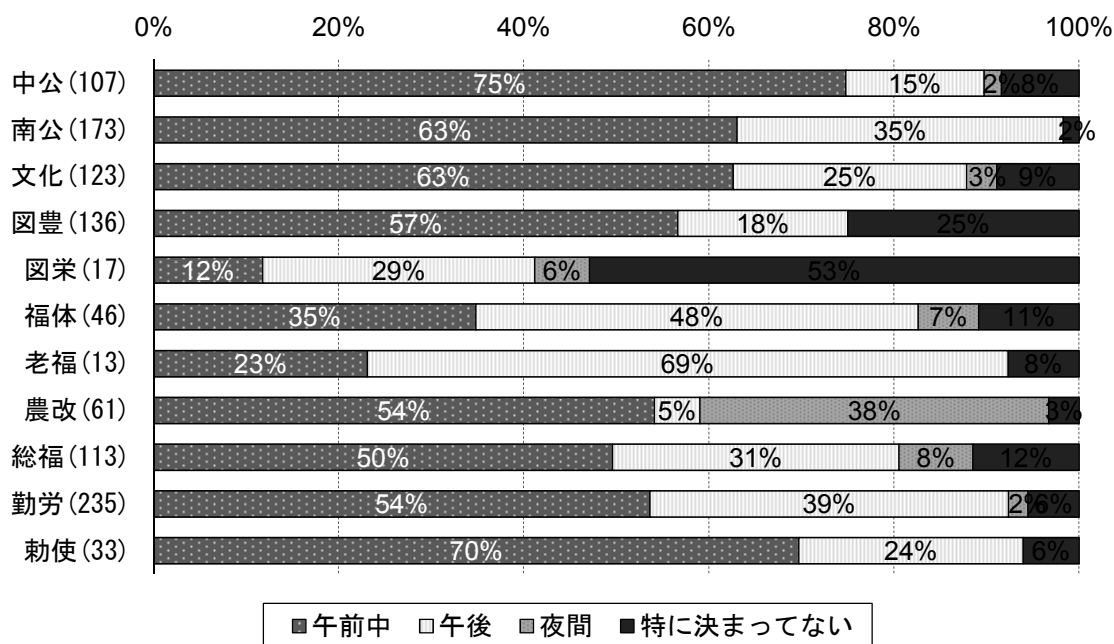


図 3.6 施設別利用時間帯比率

全体として、午前中の利用者が半数以上を占めている。午後や夜間の利用が多い施設は福祉体育館、老人福祉センターの2施設となっている。また、図書館栄分室では「決まってない」が50%を超えている。

図 3.7 に施設別利用時間比率を示す。全体を見ると多くの施設が「1～3時間」の利用が大半を示している。「1時間未満」の割合が多い施設は図書館、図書館栄分室の2施設となっている。「3～6時間」や「6時間以上」の割合が多くなったのは老人福祉センター、農村環境改善センター、総合福祉会館の3つとなった。

また、老人福祉センターでも長時間利用している利用者が多いが、この施設もお年寄りのためのフリースペースを多く取っており、図 3.4 の結果と合わせて見ても、習慣的に利用するお年寄りが多くなっている。

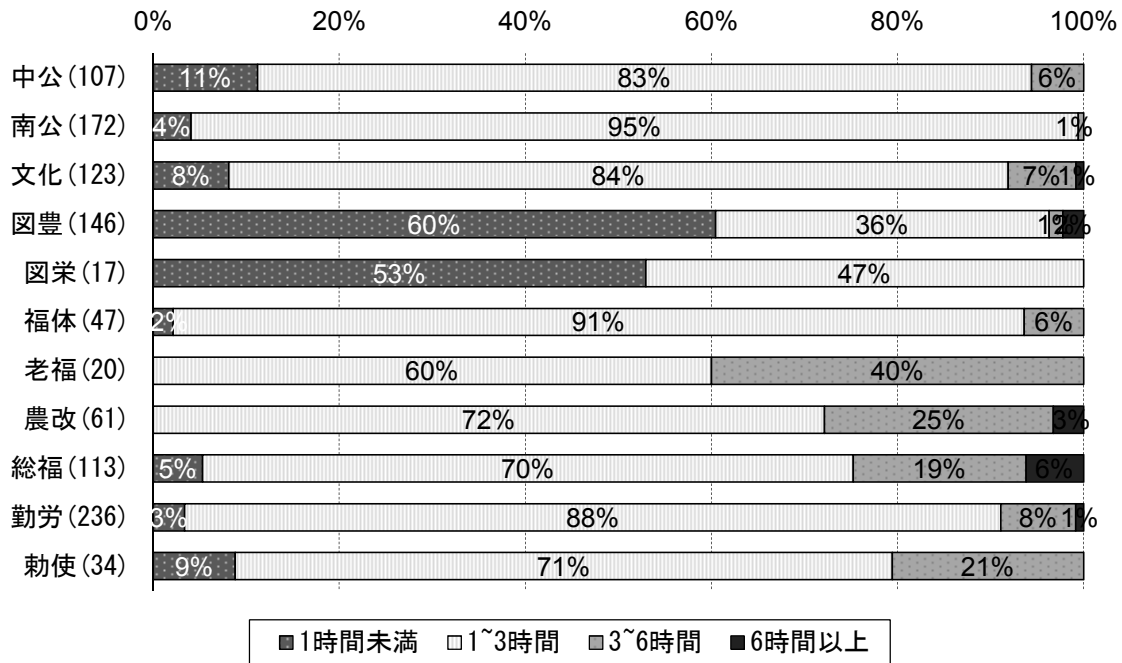


図 3.7 施設別利用時間比率

図 3.8 に施設別利用者の施設までの時間距離を示す。

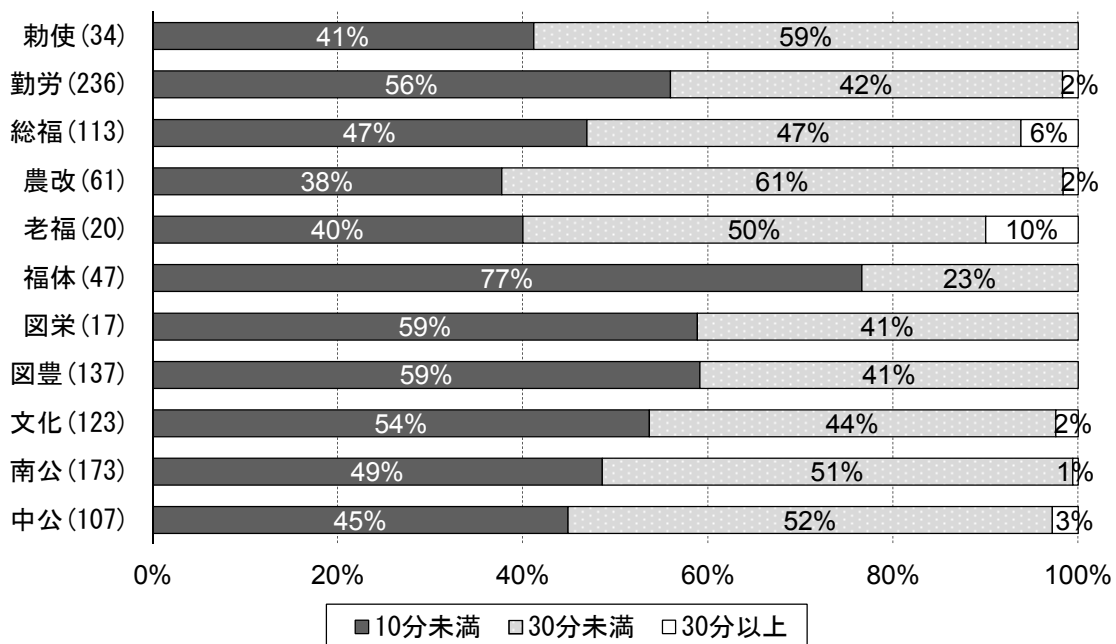


図 3.8 施設別施設までの時間距離

グラフを見ると施設まで30分以上かけて来る利用者は少なく、全体の2%ほどであった。老人福祉センターでは10%の利用者が30分以上かけて施設に訪れている。10分未満で施設に訪問する利用者が多いのは福祉体育館で75%以上である。

図 3.9 に施設別利用者の利用人数を示す。

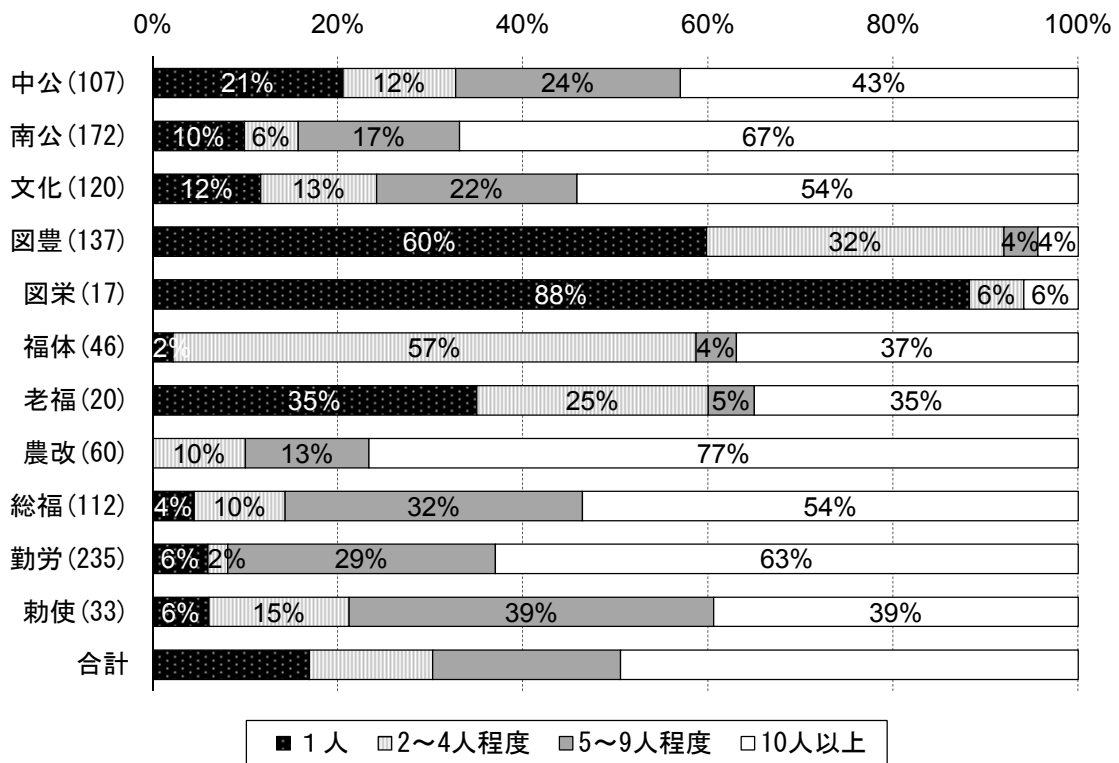


図 3.9 施設別利用者利用人数

図書館 2 施設は全体でも最も 1 人での利用が多いことがわかる。福祉体育館では全施設の中で 2~4 人での利用が多くなった。農村環境改善センターにおいては全施設の中で 10 人以上の利用が最も多くなった。当施設では太鼓を練習しているサークルが多く、その影響が見られる。

図 3.10 に施設別利用目的比率を示す。なお全施設において 5%以下の選択肢は「その他」にまとめた。会議室や多目的ホールの多い施設には「講演・教室の参加」・「会議・集会の参加」の割合が高い。公民館では「講演・教室の参加」の比率が高くなっている。その他の施設では「趣味の共有」や「運動をする」の利用が多い。

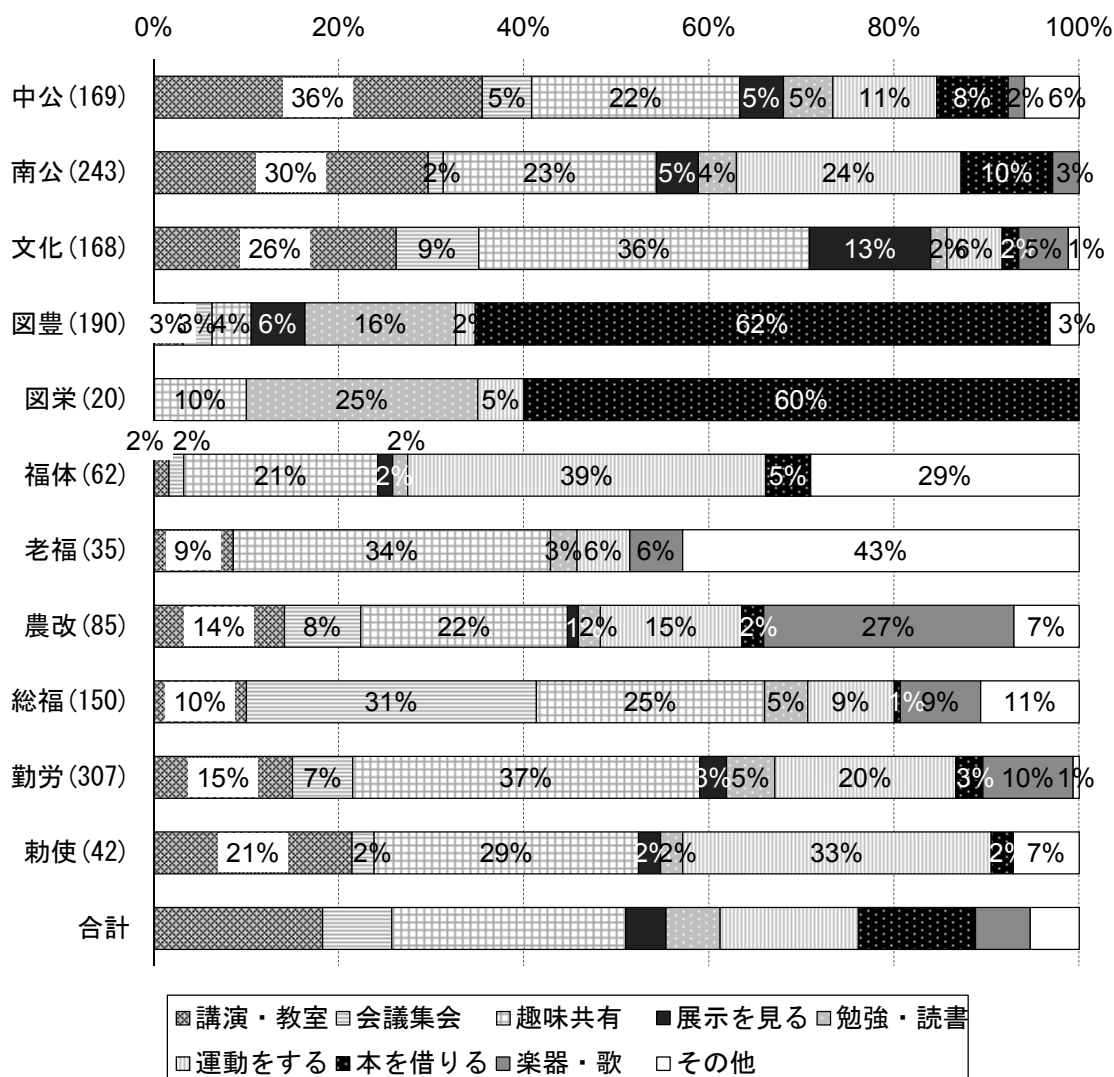


図 3.10 施設別利用目的比率



図 3.11 に施設別利用理由を示す。全体として「活動に適した部屋や設備がある」の割合が多いことがわかる。利用目的で「講演・教室の参加」の比率の大きかった公民館では「興味のある講演や教室がある」の比率が大きくなった。図書館栄分室では豊明図書館と違い、「家から近い」の割合が7割を超えた。室内運動場を有している福祉体育館・総合福祉体育館では「活動に適した部屋や設備がある」が大きくなっている。同様に防音効果のある多目的ホールを有している農村環境改善センターにおいても同様の結果が得られた。また総合福社会館、勅使会館、老人福祉センターの3施設では「利用料金が安い」の比率が20%を超えており、料金に重点を置いている利用者を満足させていることがわかる。

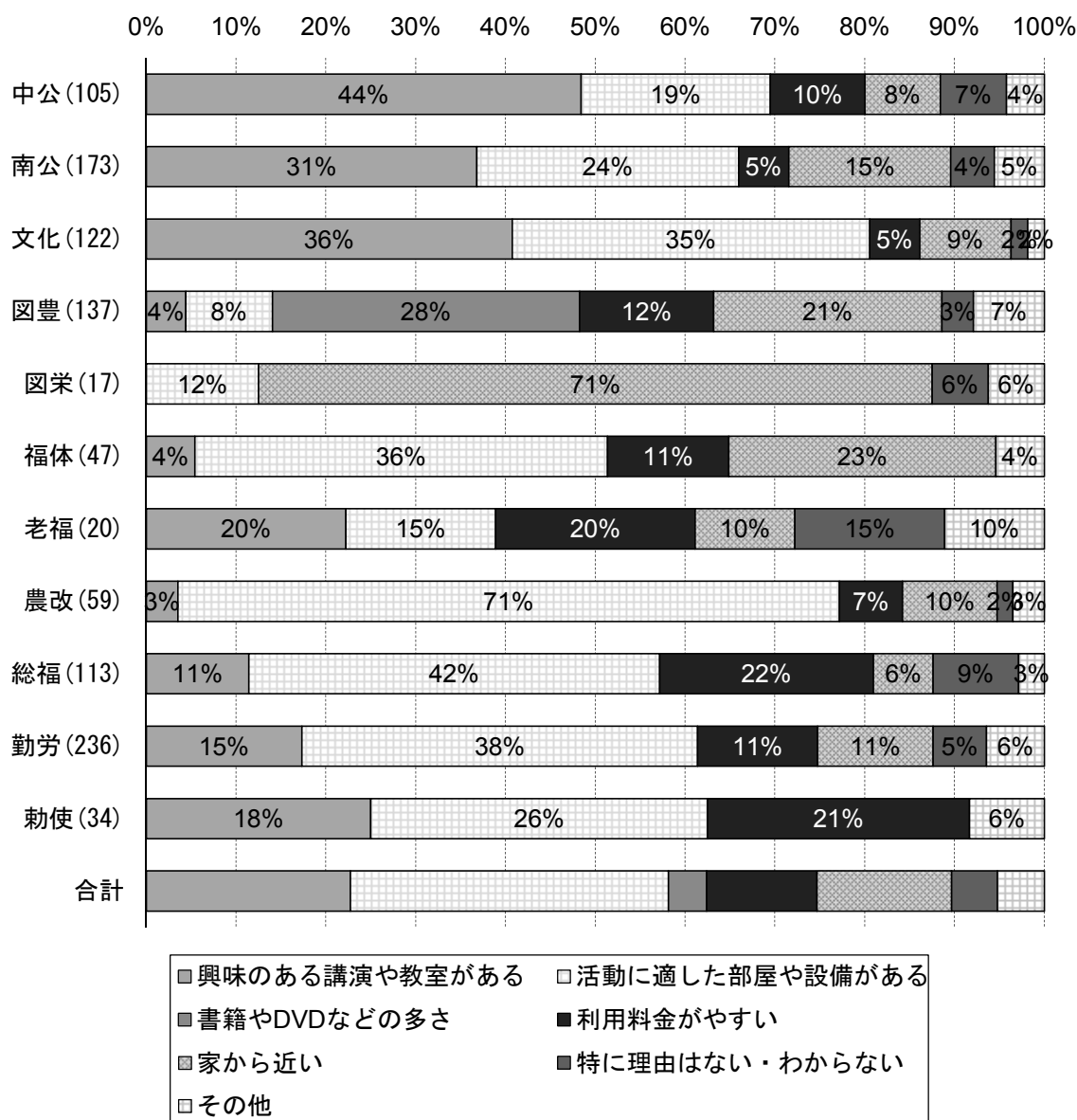


図 3.11 施設別利用理由

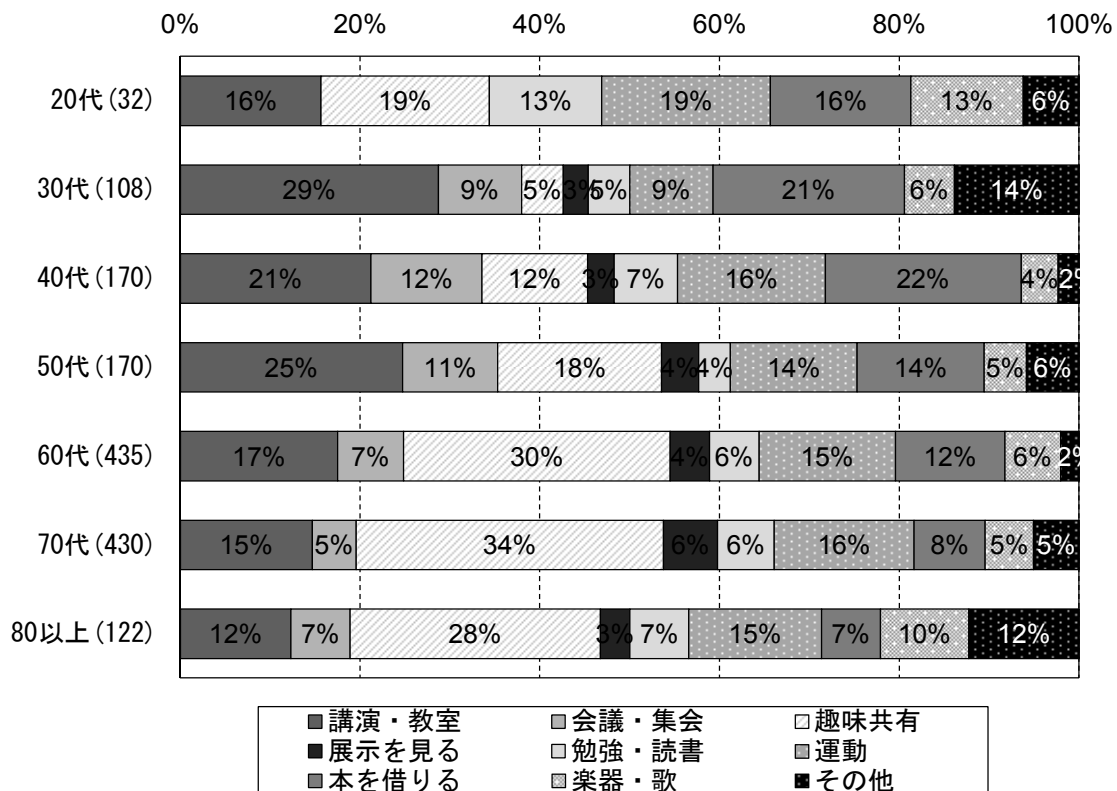


図 3.12 利用者年齢層別利用目的

図 3.12 に利用者年齢層別の利用目的を示す。「講演・教室」は 30 代・50 代で高くなっており、高年齢になるほど減少する傾向が見られる。「会議・集会」も同様に高年齢層は比率が低い。「趣味共有」では働き盛りの世代である 30 代、40 代で低くなっており 70 代まで大きくなっている。60 代、70 代は会議や講演などが少ない分趣味に興じている。

「勉強・読書」は 20 代で最も多く 50 代で最も少なくなっている。そして高齢層になるほど上昇していることがわかる。「運動」は世代に差が見られない。「本を借りる」の比率が最も多いのが 40 代であり知識意欲が見られる世代となった。

図 3.13 に男女別利用目的率を示す。

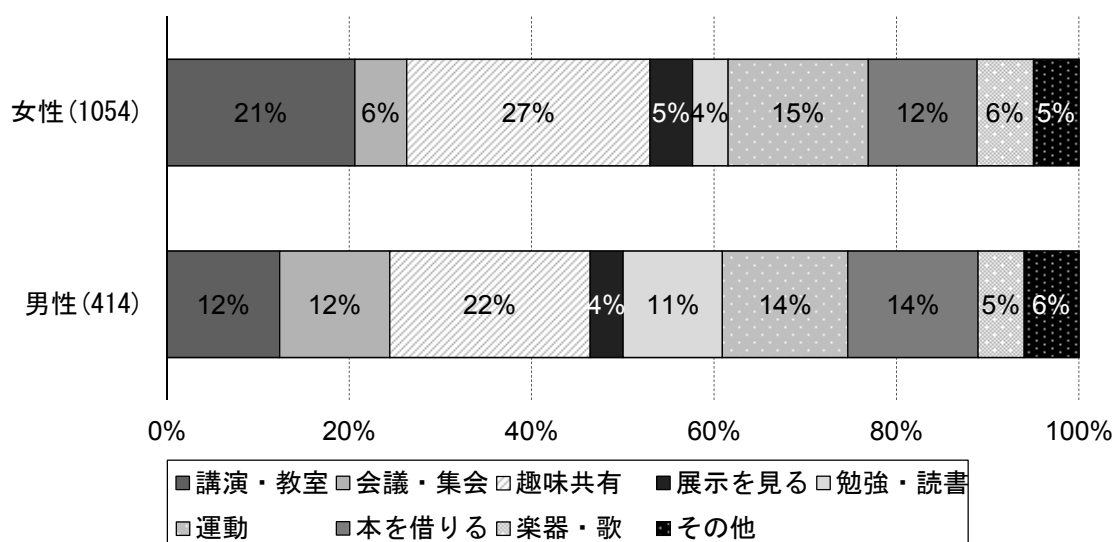


図 3.13 男女別利用目的比

男女の違いによって利用目的の異なるものを見ていく。「講演・教室」と「会議・集会」の利用では割合の合計は男女で差が見られない。「講演・教室」は女性のほうが多いが、逆に「会議・集会」では男性の割合が多くなっている。「趣味共有」、「勉強・読書」の合計はともに30%ほどだが、「趣味共有」では女性のほうが大きく、「勉強・読書」では男性の割合が多くなっていることがわかる。

図 3.14 に利用目的別利用頻度比率を示す。利用頻度が大きいのは特に「勉強・読書」、「運動」、「本を借りる」、「楽器・歌」となり、週1以上の比率が60%近くとなっている。

また、利用頻度が低い利用目的としては「会議・集会」、「展示を見る」で半年に1回以下の比率が20%を超えている。

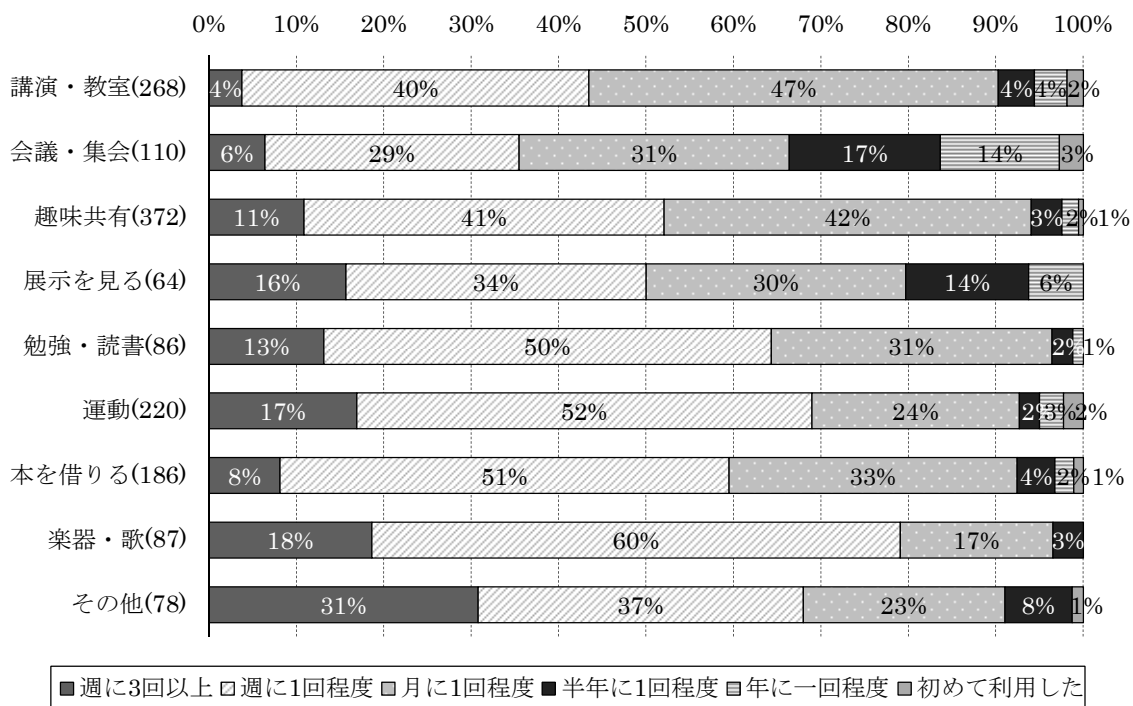


図 3.14 利用目的別利用頻度

図 3.15 に利用目的別の利用時間帯を示す。

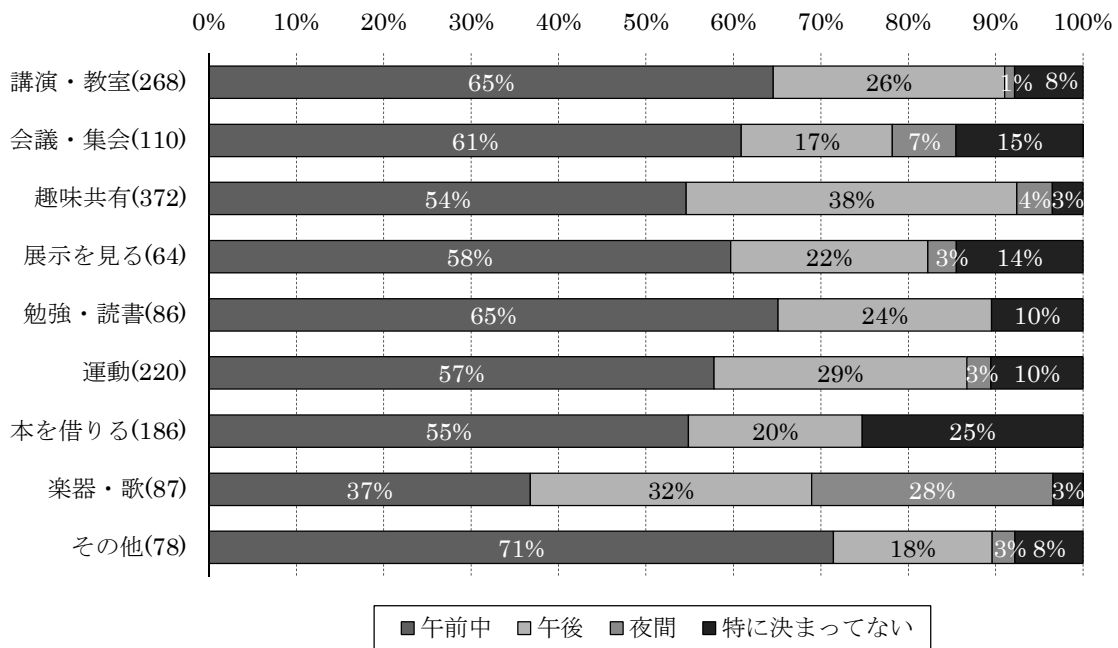


図 3.15 利用目的別利用時間帯

全体として午前での利用の比率が大きいのがわかる。目的別に利用時間帯の違いを見ていくと、「趣味共有」で午後の利用が多くなっていることがわかる。また「楽器・歌」では夜間の利用が多い。図 3.16 に利用目的別利用時間を示す。

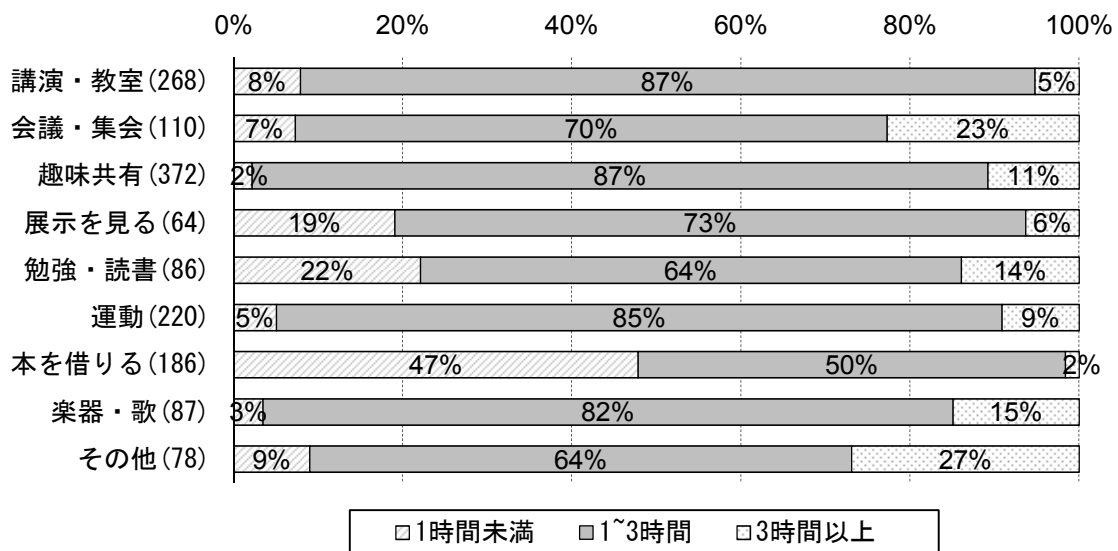


図 3.16 利用目的別利用時間

全体として「1~3時間」の利用が多いことがわかる。その中でも大きな割合を占めているのが「講演・教室」、「趣味共有」、「運動」、「楽器・歌」である。「本を借りる」では「1時間未満」の利用が最も多く50%近くを占めていることがわかる。「3時間以上」の利用が多いのは「会議・集会」であり23%となっている。

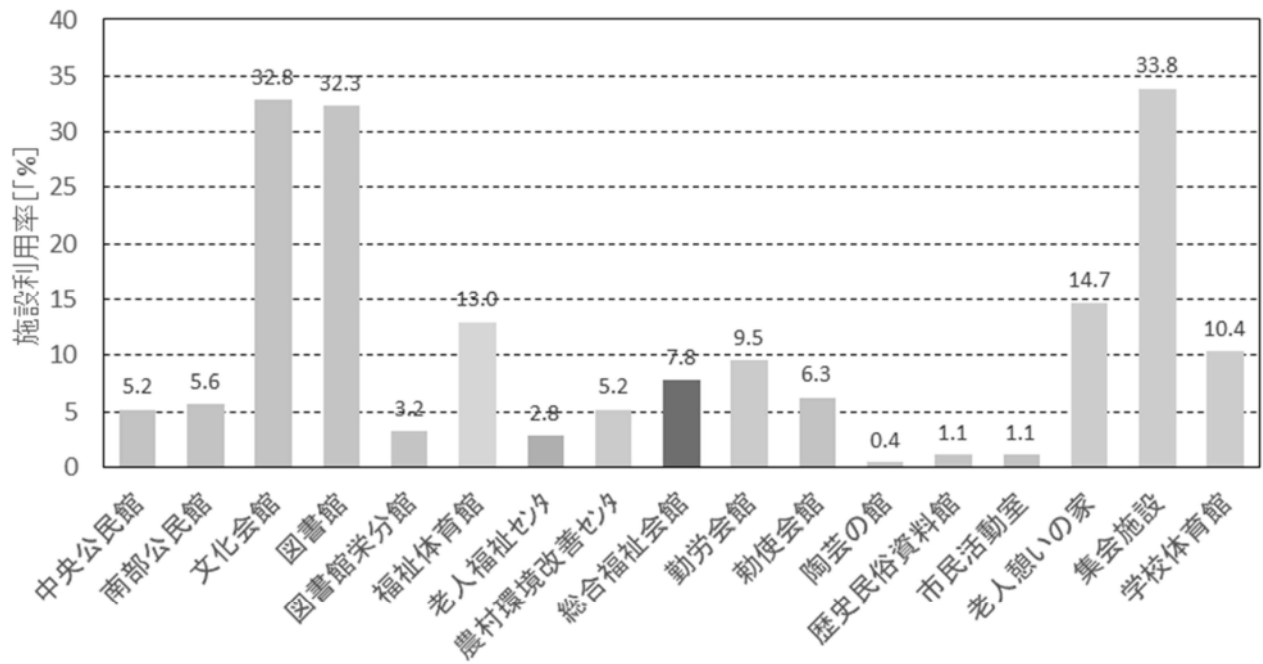


図 3.17 施設利用率

図 3.17 に豊明市民の施設別利用率を示す。当結果は、広域調査のデータをベースに分析した。なお、施設利用率＝豊明市民回答者 477 人のうち、最近 1 年間で施設したことがある回答者数/全回答者 477 人とする。文化会館・図書館・福祉体育館は 10%を越えており、利用率が高い。それ以外は一部の市民に利用されているということがわかる。

### 3.2 施設別満足度による施設評価

図 3.18 に施設別、施設の建物要素評価の満足度を示す。温熱環境、空気環境、光環境、音環境、施設全体の清潔度、トイレの清潔度それぞれ 5 点満点で評価している。

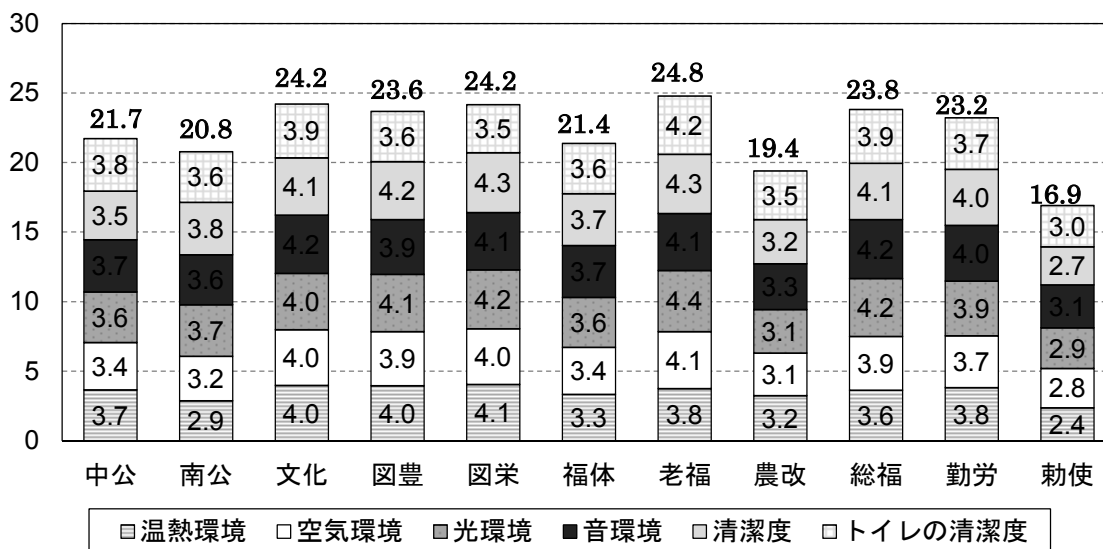


図 3.18 施設別 建物要素評価満足度

点数の低い施設を見ると、農村環境改善センター、勅使会館の 2 施設で 20 点を切っている。特に勅使会館では各項目総じて点数が低い。中でも最も温熱環境の満足度が低い。

点数の高い施設は文化会館、図書館、図書館栄分室、老人福祉センター、総合福祉会館であった。これらの施設では特に空気環境、光環境、音環境、清潔度が全て 4 点を超えている。

図 3.19 に施設別のサービス要素の満足度を示す。

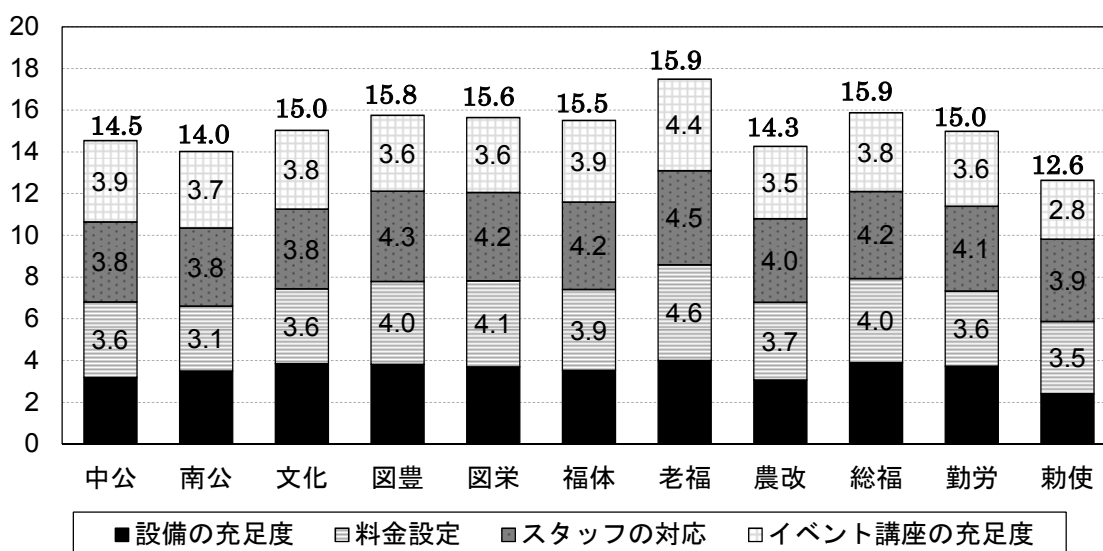


図 3.19 施設別サービス要素満足度

全体として図 3.18 の建物要素の満足度の高い施設ではサービス要素においても高くなっていることがわかる。

### 3.3 公共施設と年収の関係性に関する分析

次に、年収と利用目的について詳しく分析を行った。

図 3.20 に年収と利用目的についてクラスター分析を行い、年収をグループに分けたものを示す。

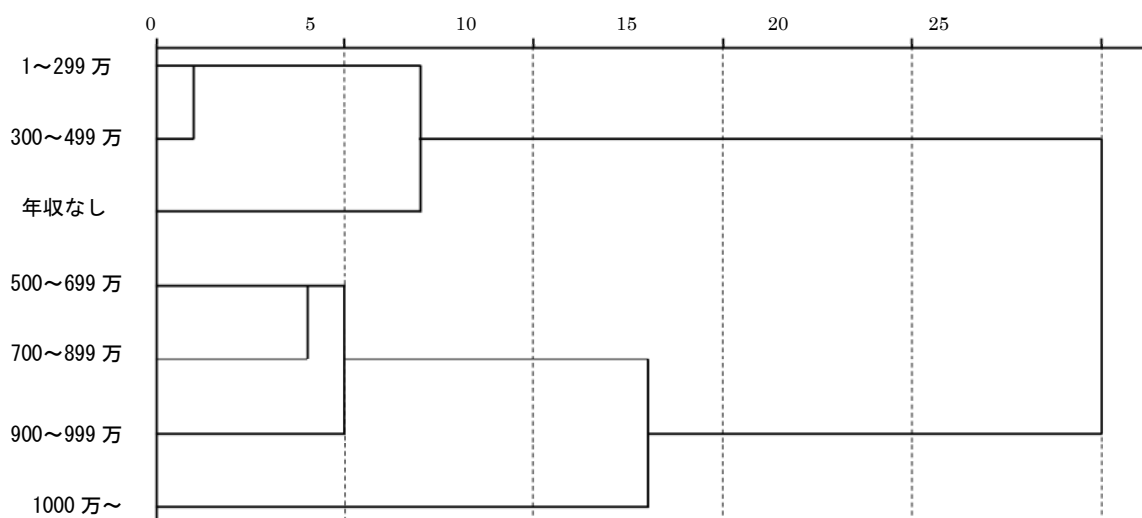


図 3.20 年収と利用目的のクラスター分析

この分析から「1~299万・300~499万・年収なし」、「500~699万・700~899万・900~999万」、「1000万~」の3つのグループに分けることができ、それぞれのグループを「低年収層」、「中年収層」、「高年収層」と便宜上の名前をつけることにした。

図 3.21～図 3.28 に各利用目的の年収層の利用率を示した。

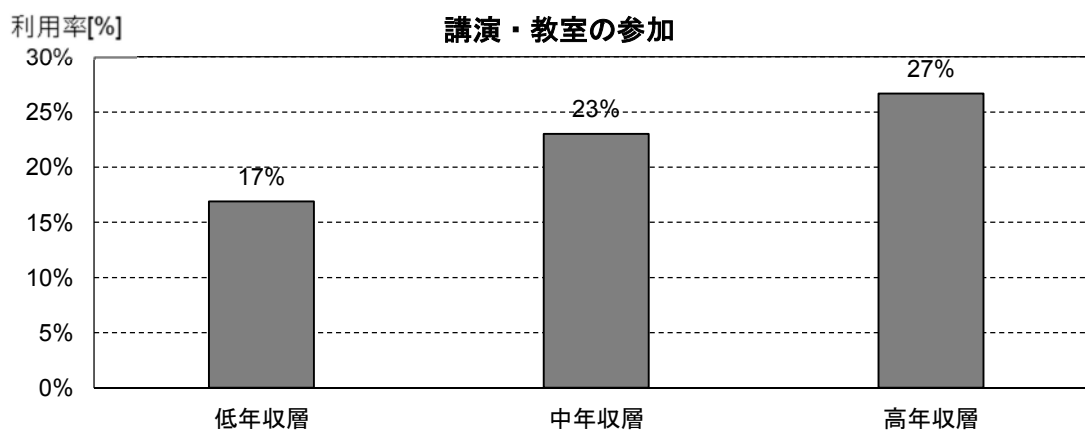


図 3.21 年収層別「講演・教室の参加」利用率

講演・教室の参加においては年収が高くなるにつれて利用率が高くなる傾向が見られた。高年収の利用者が講演や教室に参加していることがわかる。



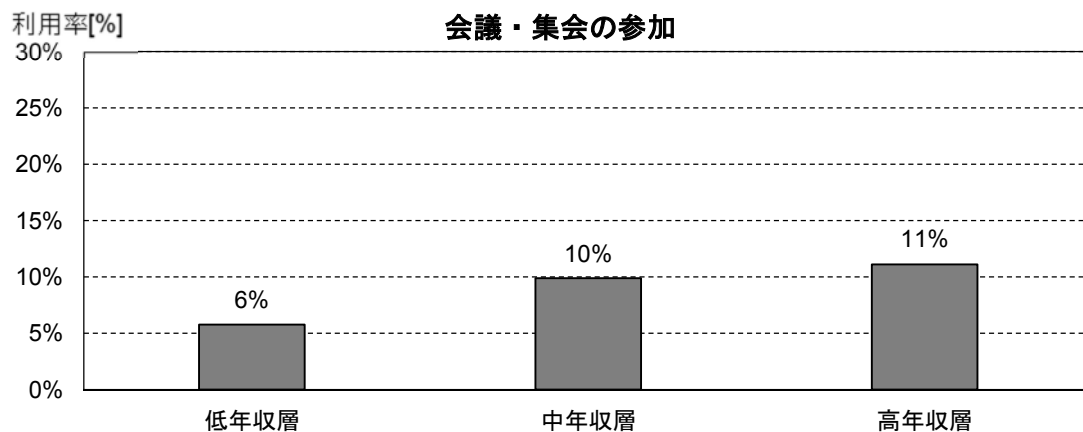


図 3.22 年収層別「会議・集会の参加」利用率

全体として講演・教室の参加に比べて比率は低くなったが、会議・集会においても高年収になるほど利用者の利用率も高くなる傾向が見られた。

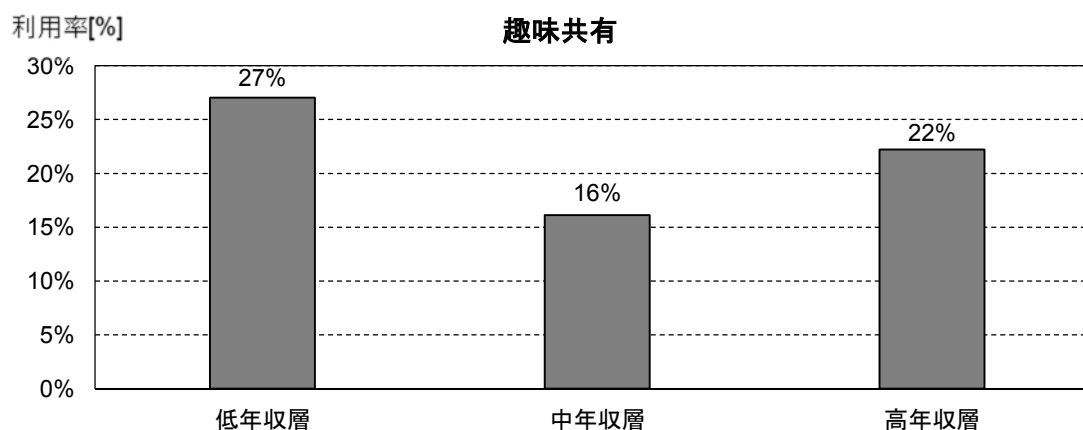


図 3.23 年収層別「趣味共有」利用率

趣味共有においては低年収層の比率が最も大きく、27%となった。

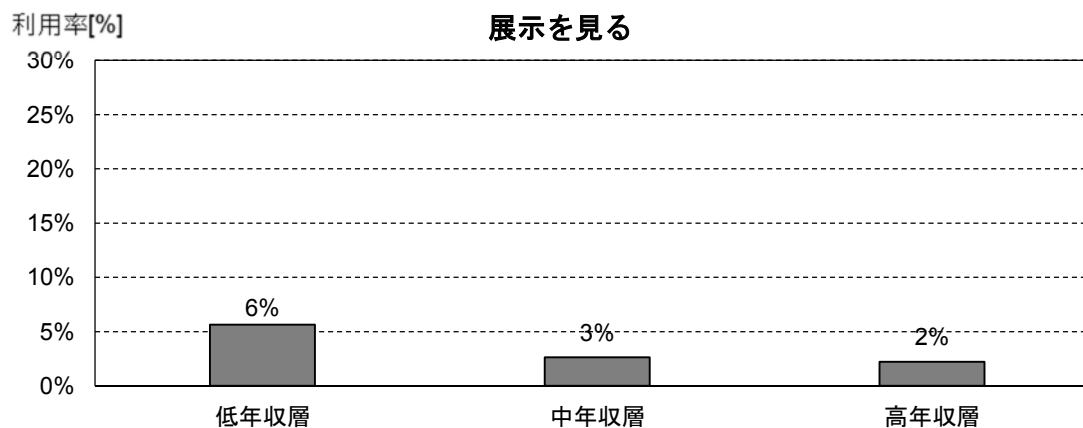


図 3.24 年収層別「展示を見る」利用率

全体として比率は小さくなったが、展示を見るでは、低年収層になるほど利用比率が大きくなること  
わかる。

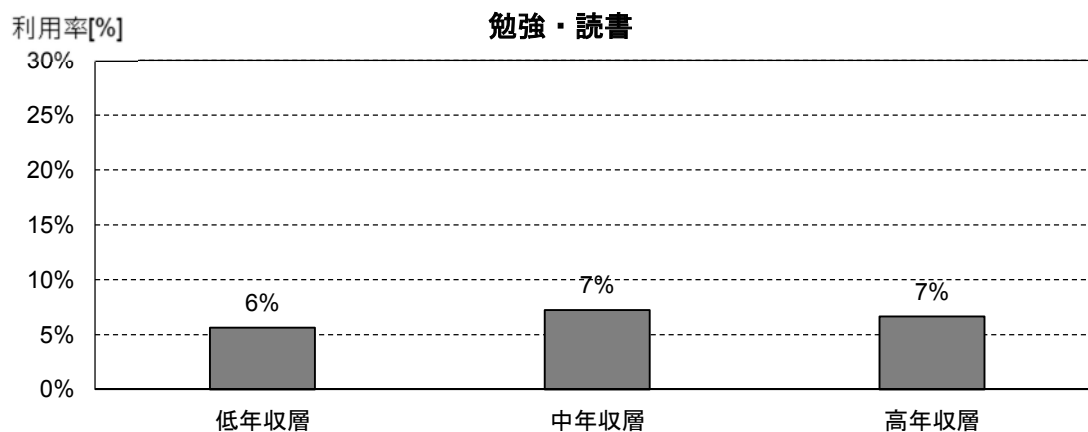


図 3.25 年収層別「勉強・読書」利用比率

勉強・読書については年収に対する相違は見られなく、全体とし利用比率も低くなった。

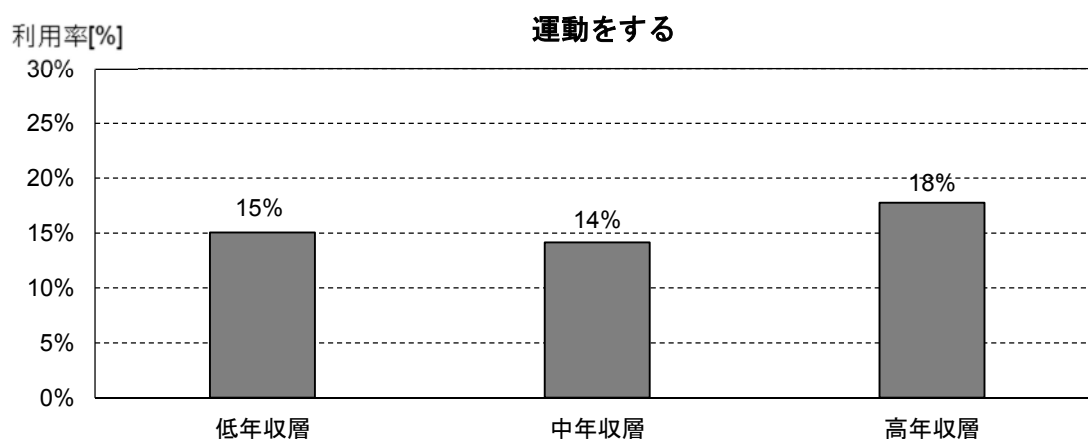


図 3.26 年収層別「運動をする」利用比率

運動をするでは高年収層の利用者の比率が高くなった。

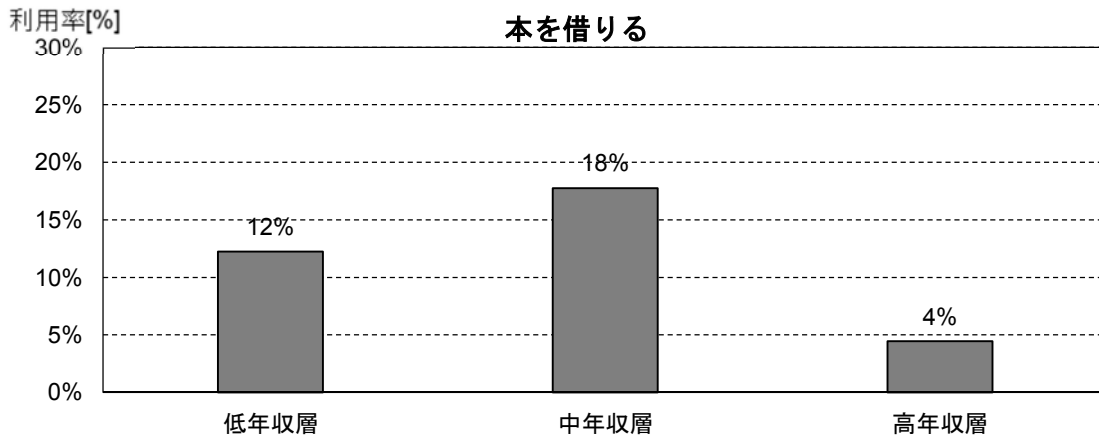


図 3.27 年収層別「本を借りる」利用率

本を借りるでは中年層までは利用率が大きくなったが、高年収層で激減しているのがわかる。高年収層でも勉強・読書の利用率は低くないため、おそらく高年収層の利用者は本を購入することが多いのだと思われる結果となった。

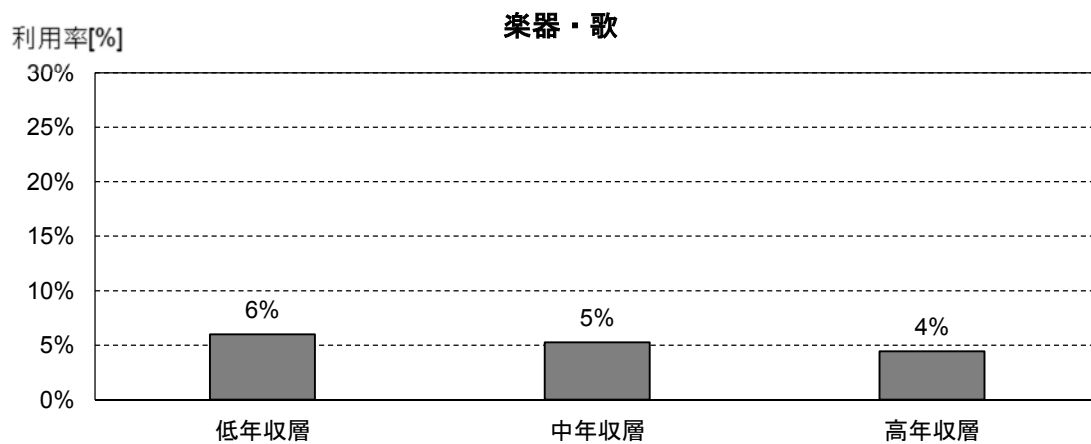


図 3.28 年収層別「楽器・歌」利用率

楽器・歌については全体として比率が小さく、誤差の範囲としても取れるが、低年収層になるほど、利用率は大きくなる傾向があることがわかる。

### 3.4 3章まとめ

本章で得られた結果を以下にまとめる。

- 1) 施設の利用者の年齢は 11 施設の内 6 施設で 60 代以上の割合が 40%を超えており、高齢者に対応した公共施設のサービスや設備が求められる。
- 2) 豊明市の 11 の施設全てで利用者の 80%が月の 1 度以上利用しており、リピーターの多い公共施設が多く見られた。
- 3) 一方で、豊明市民全体として、公共施設の利用率は非常に低く、一部の市民が複数回利用している可能性がある。
- 4) 利用時間の比率を見ると図書館以外の施設で 1~3 時間の比率が 60%を超えている。
- 5) 福祉体育館では利用者の自宅からの時間距離が 10 分未満の利用者が 8 割近くあり、また、リピーターの多い施設であるとわかる。
- 6) 利用目的別の利用者の年齢を見ると、「講演・教室」や「会議・集会」などでは 30 代~50 代にかけて比率が大きくなり、「趣味共有」や「楽器・歌」などでは 60 代~70 代の高齢者に多くなる傾向が見られる。
- 7) 施設の満足度において全体の満足度の点数が高い施設は総じて空気環境・光環境・音環境・清潔度の点数が高く、築年数の影響はないことから、これらの 4 要素が全体の満足度に大きく関係していると考えられる。
- 8) 年収と利用目的に関係性が見られ、年収層ごとの利用目的を見たところ、高年収になるほど、「講演・教室の参加」や「会議・集会」などの公的利用の比率が高く、低~中年収層では「趣味共有」や「本を借りるなどの」私的利用での比率が高いことがわかった。